

パネル展示型説明会などを行いました

WSの検討状況を示したパネルを展示し、地域のみなさんに詳しくお伝えするとともにご意見を伺いました。また、第4回WSで参加者から「新しくなる施設について考えるために、近隣の類似施設を見学したい」というご意見をいただいたことから、近年新築した江南区の曾野木コミュニティセンターと、大規模改修を行った北区の葛塚コミュニティセンターをバスで回る公共施設見学会を実施しました。

パネル展示型説明会

- 開催日** 令和5年8月30日(水)～9月5日(火)
(8月30日(水)、9月1日(金)、3日(日)、5日(火)は職員による説明会を実施)
- 場所** 大江山農村環境改善センター
- 内容** パネル展示、市職員による説明、意見聴取
- 意見提出者** 25人

公共施設見学会

- 開催日** 令和5年9月27日(水)
- 見学施設** 曾野木コミュニティセンター、葛塚コミュニティセンター
- 参加者** 11人



見学会の様子

計画案報告会を実施します

これまでのWSや広報紙などに寄せられたご意見をもとに、事務局で作成する「大江山地域実行計画案」の報告会を開催します。

- 日時** 1月27日(土) 午前9時30分～10時30分
- 場所** 大江山農村環境改善センター
- 対象** 大江山地域在住または同地域の公共施設をご利用の方
- 持ち物** 上履き
- 申し込み** 1月15日(月)までに、FAX(025-381-7090)で、件名「計画案報告会参加」、氏名、電話番号を明記、または電話(☎025-382-4619)

今後の進め方

市は、地域のみなさまのご意見を検討に反映させ、実行計画案を作成します。その後、報告会や広報紙などで情報提供・意見聴取を行い、「大江山地域実行計画」を策定します。



ご意見・お問い合わせはこちらまで

大江山地域実行計画コミュニケーション事務局

- 電話** 025-382-4619
- 郵便** 〒950-0195 江南区役所地域総務課あて(住所不要)
- FAX** 025-381-7090
- 電子申請** 新潟市電子オンライン申請サービス「e-NIIGATA」(右の二次元コード)



新潟市
財産経営NEWS
広報紙 第6号

一緒に考えませんか？ 公共施設のこれからを / 大江山地域のまちづくり

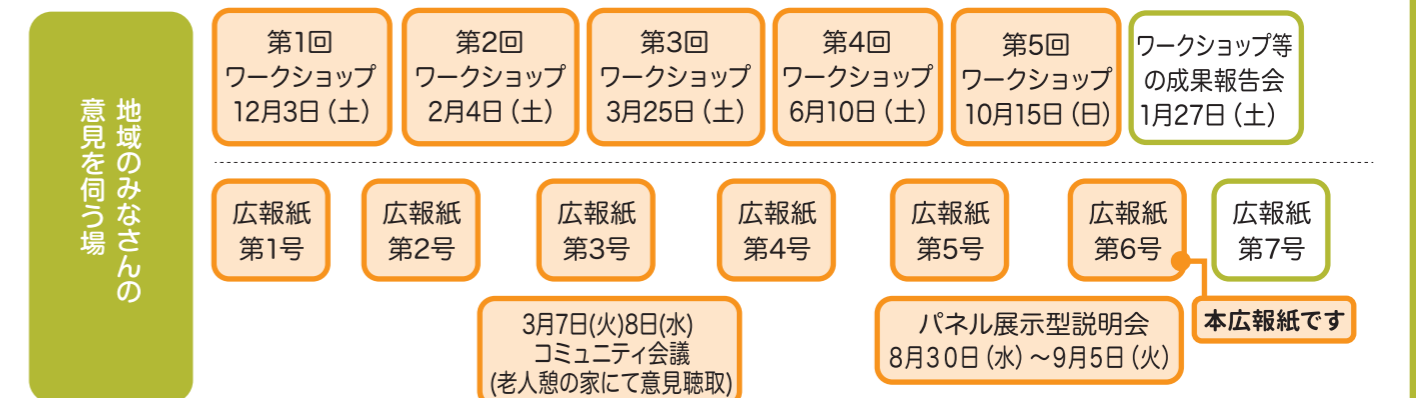
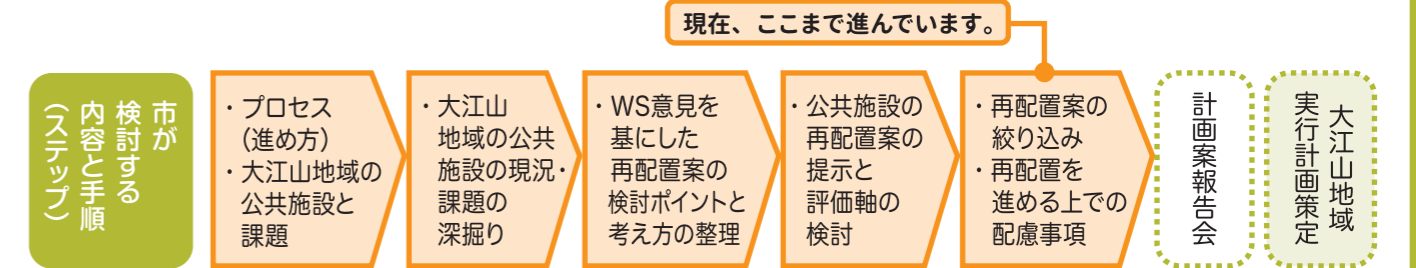
[発行者] 大江山地域実行計画コミュニケーション事務局
江南区地域総務課 ☎025-382-4619 財務部財産活用課 ☎025-226-2387
令和5年12月発行

新潟市では、「財産経営推進計画」に基づき、地域の身近な公共施設については、地域のみなさんと市が協働で、そのあり方について検討しています。

大江山地域では、地域の活動拠点である大江山農村環境改善センターが大規模改修の目安である築40年を超えていることを機に、大江山地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいのみなさんと新潟市が共に考えるワークショップ(WS)を令和4年12月から進めてきました。

大江山地域の公共施設のあり方について検討を進めてきました

第1回WSと第2回WSでは、大江山地域の公共施設の現状・課題を深掘りし、第3回WSで再配置案の検討ポイントと考え方を整理しました。第4回WSと第5回WSでは、これまでの話し合いをもとに提示された評価案と再配置案について検討しました。



第5回ワークショップでは活発な話し合いが行われました。詳細は中面をご覧ください。

江南区親善大使
「姫ちゃん」

大江山地区出身
越後姫のキャラクター



第5回WSの様子

大江山農村環境改善センターにて



WSの概要

- 第5回** 令和5年10月15日(日) 午前9時～正午
- 会場** 大江山農村環境改善センター
- 参加者** 23人
- 資料** 当日の資料は市ホームページ(右の二次元コード)に掲載しています。



第5回ワークショップで出された意見（抜粋）

第5回WSでは別紙の評価案、再配置案（たたき台）をもとに、話し合いが行われました。別紙を参考にしながら、2・3ページのWSで出されたご意見をご覧ください。

1. 評価案について 評価案は別紙を参考にご覧ください

- ③「過度な財政負担が将来世代に残らない…」については、建物の詳細や金額も定まっていないため、いずれの案も等しく「○」の評価でよいのではないかと。
- 案Cは、④「既存の建物の有効利用…」の項目が「◎」となっているが、利用率の高い多目的ホールがないため「△」が適切であろう。
- 案Aは、④「既存の建物の有効利用…」の項目が「△」になっているが、利用率の高い多目的ホールを残している。利用率の低い部屋は原因を調べ、配置や可動式の間

仕切りを検討するなど、利便性を高めることで利用率が上がる可能性があるため「○」が適切だろう。

- これまでの多くの意見を評価軸という共通な事項にまとめるのはむずかしいと思っている。様々な意見はあると思うが、これまでの意見をコンパクトにまとめて表すどのような評価になるのであろう。
- 流行りのダンスやバンド活動ができるなど、「若者の使い勝手が良い機能を持たせる」という評価軸を追加したい。

2. 再配置案について 再配置案は別紙を参考にご覧ください

【案A・B・B' 共通】

- 他の地域にはないような、大きな多目的ホールがあることが大江山地域の強みになる。施設再編を機に官民協働で文化を育む視点が必要だ。
- 多目的ホールを存続することが大切。学校の体育館のような使用制限がなく、大勢が集まれて、運動できる広いスペースは地域にとって必要だ。
- 誰でも気軽に入れるオープンな雰囲気にする。

【案A】

- 現在の広さや部屋数を活かせる。これだけ使える部屋があることを周知することで、地域活動の可能性を広げられる。
- 現状の規模をそのまま存続でき、イメージしやすくスムーズに移行できそう。地域全体の催しを開くには、現状の施設規模は必要だ。農改センターの運用を改善して、利用率を上げる。
- せっかくある農改センターを壊して小さくする必要はない。面積を減らすことで、活動する部屋が足りなくなる懸念もある。地域の活性化のため、今ある施設面積を活用して、新しい使い方を検討してほしい。
- 大人数の炊き出しは屋外でもできるため、今ある調理室は貸室に転用し、調理機能を一部存続する案でよい。
- 高齢者は2階に上がらず1階だけで活動ができるような運用の仕方を考えていくことも大切だと思う。
- 面積が小さくなる建て替えは無理に行わず、古くなった部分を直して使うのがよい。

【案B】

- 多目的ホールが残ることは最大のメリット。他の地区ではできないような催しを行うことができ、大江山地域のオリジナリティある地域づくりにつながる。地域拠点としての可能性を広げたい。
- 地域全体のイベントをやるために多目的ホールを残しつ

つ、新しいコミュニティ施設を作ることで地域拠点としての可能性を広げたい。

- 利用状況を見据えて部屋を整理し、利用の効率化を図るのがよい。長い目で見て維持費がかからないようにコンパクトに建て替えられる。
- 2階は倉庫としても活用できそうだが、荷物を人が運び上げるのは負担で、エレベーターも小規模なものになると思われる。平屋は2階建てよりコストがかからないため、2階がない案Bはよい。
- 誰でも使いやすいバリアフリーの考え方でトイレや段差を改修することが大切で、2階建てであればエレベーターが絶対必要だ。
- 多目的ホールは残るが、ただ小さくなったという印象で、建て替えの新鮮味が乏しい。
- 貸室が減るため、多目的ホールを間仕切りで分けて使えるように検討してほしい。

【案B'】

- 2階の部屋は、ちょっとした会合や倉庫、災害時の避難場所など、柔軟に利用できる。
- 利用率が減少している分、面積をある程度減らすことは効率的だが、全面的な建て替えでは面積が小さくなるので、小規模な部屋が並ぶ間取りになり、用途が限定される気がする。今ある建物を活かし、使い方や利用状況を踏まえながら改修する案B'だと、利用しやすくなると思う。
- 案Bと案B'で機能が同じであれば建設費、維持費が安い案を選択する。

【案C】

- 一番コストが削減できる案である。浮いた予算を大企業の誘致に使用するなど、これからの世代のためになることに使用してほしい。
- 利用者の減少に合わせて面積を減らすので無駄をなくせる。

- 大人数で集まる機会は減っているため、多目的ホールで行っていたような大人数の催しは、今後は学校や他の施設を利用すればよい。
- 大江山地域は周辺地域と比較すると、公共施設の整備が不十分であると思うので、規模が縮小されるのは納得がいかない。現状と同じ規模を維持したまま建て替えてはどうか。新築すれば人が集まり、活動の可能性も広がるだろう。

3. 付帯事項 今後再編を実行するうえで配慮する事項に関するご意見

【図書室機能について】

- 図書室はむしろ拡充して人が集まる求心力のある施設とすべきだ。明るい雰囲気のスペースに書籍や絵本を置いて、若者や親子が自由に使える居場所になるとよい。
- 図書室を部屋として残し、貸し出し機能も残してほしい。
- 大江山や新潟の歴史など子どもの教育に必要な書籍や資料は、大江山に図書室として残してほしい。
- 大江山や新潟の歴史などの書籍や資料は、亀田の図書館にあればよい。
- 子どもや学生が学習できるスペースなどは残し、市内の図書館の書籍をオンラインで貸し出しできるシステムを整備するとよい。

【公民館について】

- 生涯学習の機会を設けるなど、地域の文化活動を推進する公民館機能を充実させ、PRを工夫して大江山独自の活動を広げること検討してほしい。
- 大江山公民館が機能すれば、催しの企画や周知にもっと力を入れることができるので、公民館のあり方を検討してほしい。

【農改センターの名称について】

- 農改センターの名称は、これまでの歴史があるので残す方がよい。少人数でも利用できる仕組みづくりや、公民館活動を活性化するなど、運営を工夫して利用率を上げることが大事である。
- 現在、大江山地域の農業従事者は減少しているため、農村環境改善センターの名称を変更したほうが、若い世代が利用しやすいと思うので、検討してほしい。

4. 整備したい施設設備など 計画策定後、大江山農村環境改善センターの整備に関するご意見

- これまでの利用方法に捉われず、間仕切りを可動にして用途や人数に合わせて利用できるようにする。
- 貸室は間仕切りを可変にして多用途に使えるようにしてほしい。
- アプローチとエントランスを改修してオープンで入りやすい雰囲気にしてほしい。

- 駐車場の樹木は、管理しやすい低木の植栽に変えてはどうか。
- 単に現状の建物を修繕するのではなく、用途に合わせて部屋の間仕切りを可動できるようにするなど、これからの住民ニーズに合わせた改修してほしい。

5. その他

- これまで行われた全5回の施設再編ワークショップを、単なる住民参加のアリバイづくりにせず、話し合いに出された多様な利用者を配慮するなどの意見や考えを、しっかり反映した再編を行ってほしい。
- 全体としてよくまとめられている。今回でワークショップは最後になるが、これまでの話し合いを生かして、今後も考えていくことが必要だ。
- 市にはワークショップで出された意見を踏まえて引き続き考えてほしい。
- 若い世代の考えや要望を反映してほしい。
- 地域住民の中には、農改センターは、「3階建ての新築建て替え」案になっている人もある。誤解のないように説明してほしい。

- 施設の整備は基本構想の段階で住民に説明してほしい。
- 他地区の大規模改修と新築した施設をそれぞれ見学したが、一長一短があり、どのような施設がよいのか検討が必要だ。
- 現在の施設利用状況にとらわれず、この先、地域をどうしていきたいのか、方向性を明確にしてから再編を考えることが重要だ。
- 今後、利用者である我々が、用途や必要な設備を検討していく必要がある。
- 住民の地域づくりへの無関心が広がっているが、各地で頻発する災害事例を見ても、今後ますます助け合いは必要で、地域をなんとかしようとする人材育成は不可欠と考えられる。今回の話し合いを機に、新たな地域づくりを行う機運を盛り上げたい。

評価案

第4回WSなどで出されたご意見により、修正した「評価軸」をもとにして、①～⑤の「課題解決の狙い」ごとに各案を事務局で評価し、評価の高い順に◎、○、△としました。第5回WSでは、この評価案について修正等のご意見をいただきました。

※「大江山農村環境改善センター」は「農改センター」と略記します。
※これらの案は実現を担保するものではありません。

狭み込みの資料は、第5回WSで検討した評価案と再配置案です。
こちらの資料を参考にしながら、
2・3ページのWSで出されたご意見をご覧ください！



課題解決の狙い	評価軸	案A	案B+案B'	案C
①地域のまとまりや一体感を形成する	<ul style="list-style-type: none"> ●住民同士が交流できる居場所は確保しているか ●誰もが気軽に利用できる施設になっているか ●バリアフリー施設となっているか ●多世代が使えるスペースになっているか ●身体を動かす広いスペースは確保されているか ●大人数が集まれるスペースや施設は確保されているか ●地域の拠点施設として活性化は見込めるか 	◎	○	△
		●農改センターの貸室を1階に集約することで、昇降を不要にする	●農改センターを、2階でエレベーター設置または平屋にする	●農改センターを複数階でエレベーター設置または平屋にする
		●多目的ホールが、身体を動かすことや大人数が集まることができる広いスペースになっている		●農改センターの部屋を繋げることで広いスペースを確保できるが、多目的ホールより狭い
		●現状の施設規模を最大限に活用することで、さまざまな地域活動を行うことが期待できる	●大人数で行う地域活動を実施できるが、現状の施設規模より活用の幅が狭まる可能性がある	●大人数で行う地域活動などは、小中学校の体育館を利用する必要がある
		<ul style="list-style-type: none"> ●農改センターに予約不要で誰でも使えるスペースを整備することで、住民同士の交流の活性化が期待される【共通】 ●農改センターに親子や高齢者の居場所機能、学習スペースを確保することで、幅広い年代で使い、多世代が交流できる施設として期待される【共通】 ●トイレの整備や段差解消など、バリアフリーに配慮して整備する【共通】 ●地域の課題解決を目的とした組織であるコミ協の事務室がある【共通】 		
②子育ての環境、若者や高齢者の居場所をつくり、地域を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> ●多世代が使えるスペースになっているか ●学生や親子が行きたいと思える場所となっているか 	○	○	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●農改センターに予約不要で誰でも使えるスペースを整備することで、住民同士の交流が活性化【共通】 ●農改センターに親子や高齢者の居場所機能、学習スペースを確保することで、幅広い年代で使い、多世代が交流できる施設として期待される【共通】 		
③過度な財政負担が将来世代に残らない	<ul style="list-style-type: none"> ●施設運営コストは削減されるか ●施設維持更新費用は削減されるか(改修・改築費) <small>※農改センター、老人憩の家、保育園、各集会所などの各施設を30年間そのままの規模で維持した場合のコストとの比較 ※施設運営コストは、平成29～31年度の3か年の平均値が30年間そのままかかるものとした試算値 ※施設維持更新費用は、修繕・改修・改築・解体を合計した試算値 ※外構部分は含まれていない</small>	△	○	◎
		●30年間で約31.0億円の削減 施設運営コスト:約23.8億円削減 施設維持更新費用:約7.1億円削減	●30年間で約33.3～34.0億円の削減 施設運営コスト:約25.0億円削減 施設維持更新費用:約8.3～9.0億円削減	●30年間で約35.5億円の削減 施設運営コスト:約25.8億円削減 施設維持更新費用:約9.7億円削減
④既存の建物の有効利用、利用率を高める工夫、利便性向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●多用途に利用できる施設になっているか ●施設面積は削減されるか ●施設の効率的な活用につながっているか ●アクセスしやすい施設配置となっているか ●歩いて行ける場所に集まれる施設はあるか ●十分な駐車場は確保されているか ●使いやすい駐車場は整備されているか 	△	○	◎
		●農改センターを整備することで、コミュニティ・運動・調理以外にも学習・居場所などの利用も可能		●多目的ホールがなくなるため、運動や大人数の利用に制限がある
		●老人憩の家の廃止により、総施設面積が削減	●老人憩の家の廃止や農改センター(多目的ホールを除く)の縮小により、総施設面積が削減	●老人憩の家の廃止や農改センター(多目的ホールを含む)の縮小により、総施設面積が削減
		●農改センターはあまり使われていない部屋があるが、規模が維持されるため、施設利用の効率化の課題が残る	●農改センターを、多目的ホールを除いて利用状況に応じた規模で整備するため、施設利用は一定の効率化が図れる	●農改センターを利用状況に応じた規模で新たに整備するため、施設利用の効率化が最も図れる
		●農改センターの駐車場の整備には樹木伐採などの必要があり、課題が残る	●農改センターの減築に伴い、利便性の高い駐車場の整備が期待できる	●農改センターの建て替えに伴い、外構部分が最も広くなり、駐車場の整備や駐車場の確保が期待できる
<ul style="list-style-type: none"> ●大江山地域の中心に、地域の拠点となる農改センターに向かう公共交通が整備されている【共通】 ●老人憩の家の廃止に伴い、歩いて行ける施設が減少するが、自治会集会所や空き家等の活用で集まれる場所の確保の検討は可能【共通】 				
⑤災害に強く安全な地域をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●安心して生活するため、災害時に避難できる施設はあるか ●地域に備蓄倉庫は整えてあるか 	○	○	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●丸山・大淵小学校と大江山中学校が避難所として確保されている【共通】 ●避難所指定されている各学校には避難所運営ボックスが設置されており、農改センターには備蓄倉庫が設置されている【共通】 		

課題解決のためのコンセプトと再配置案（たたき台）

第4回WSなどでは、大江山農村環境改善センターについての意見が多くあったことから、
 第5回WSでは「多目的ホールを有効活用しながら、利用に見合う多世代交流拠点をつくる案」としていた案Bを、
 「多目的ホール以外を建て替える」案Bと、「利用に見合う規模に減築した上で大規模改修をする」案B'に分けて検討しました。

※「大江山農村環境改善センター」は「農改センター」と略記します。 ※これらの案は実現を担保するものではありません。

再配置案	案A	案B	案B'	案C
施設配置案	現在の農改センターを最大限活用しながら、多世代交流を図る案	多目的ホールを有効活用しながら、利用に見合う多世代交流拠点をつくる案（建て替え）	多目的ホールを有効活用しながら、利用に見合う多世代交流拠点をつくる案（大規模改修）	農改センターを新たに建て替え、多世代交流拠点をつくる案
施設配置図				
農改センター	◎現状の施設規模のまま存続	◎多目的ホールを残しながら、利用に見合う規模で建て替え	◎多目的ホールを残しながら、利用に見合う規模で大規模改修	◎地域の要望に配慮しながら、他の地域のコミュニティ系施設の規模に合わせて建て替え
整備方法	●現状の施設規模のまま大規模改修	●多目的ホール:大規模改修、その他:建て替え ●施設規模を現状の約2/3程度(※)に整備 ※【施設規模イメージ】貸室2部屋程度(現在の農改センターの大研修室・小研修室各1部屋程度)と以下の機能を加えた整備	●大規模改修	●施設規模は半分以下程度(※)とし、現施設を取り壊し建て替え ※【施設規模イメージ】貸室3~4部屋程度(現在の農改センターの大研修室・小研修室各1~2部屋程度)と以下の機能を加えた整備
多目的ホール	●現状の施設規模のまま存続			●廃止(現施設の多目的ホールは取り壊すが、建て替え後、施設の部屋を繋げるなど、広いスペースとしての利用は可能)
バリアフリー	●全ての貸室を1階に集約、トイレの整備、段差解消など	●トイレの整備、段差解消などのほか、必要に応じエレベーターを設置		●バリアフリーに配慮して整備するほか、必要に応じエレベーターを設置
調理機能	●利用率の低い料理実習室は、多用途に使える貸室へ転用(非常時やイベントなどで活用できるよう調理機能を一部存続)	●非常時やイベントなどで活用できるよう調理機能を整備		
図書室	●図書室を廃止 ●学習スペースの整備			
多世代交流	●親子や高齢者など、予約不要で誰もがくつろげるスペースの整備			
災害対策機能	●災害用倉庫の設置			
外構	●駐車場などの外構の整備			
連絡所	●存続			
コミ協事務室	●存続			
老人憩の家	●老人憩の家は風呂機能の設備改修が困難になるまで存続(農改センターが整備されるまでは、風呂機能が廃止されても、部屋の貸出を継続) ●老人憩の家廃止後、農改センターなどを活用(農改センター:誰でもくつろげるスペースを整備、バリアフリーに配慮)			
ひまわりクラブ	●存続(現状の施設のほかに、小学校の特別教室などを開放し、できるだけ広いスペースを確保)			
小・中学校	●存続(学校のあり方については、将来の児童生徒数の状況を踏まえながら、「新潟市小中学校の適正配置基本方針」に基づき、必要に応じて別途検討)			
農改センターの延床面積イメージ	【整備後】 延床面積 1,836㎡	【整備後】 延床面積 約1,100~1,300㎡ 建て替えを平屋にしたイメージ 1,300㎡	【整備後】 延床面積 約1,300㎡	【整備後】 延床面積 約660~860㎡ 平屋建てで建て替えた場合のイメージ 860㎡